



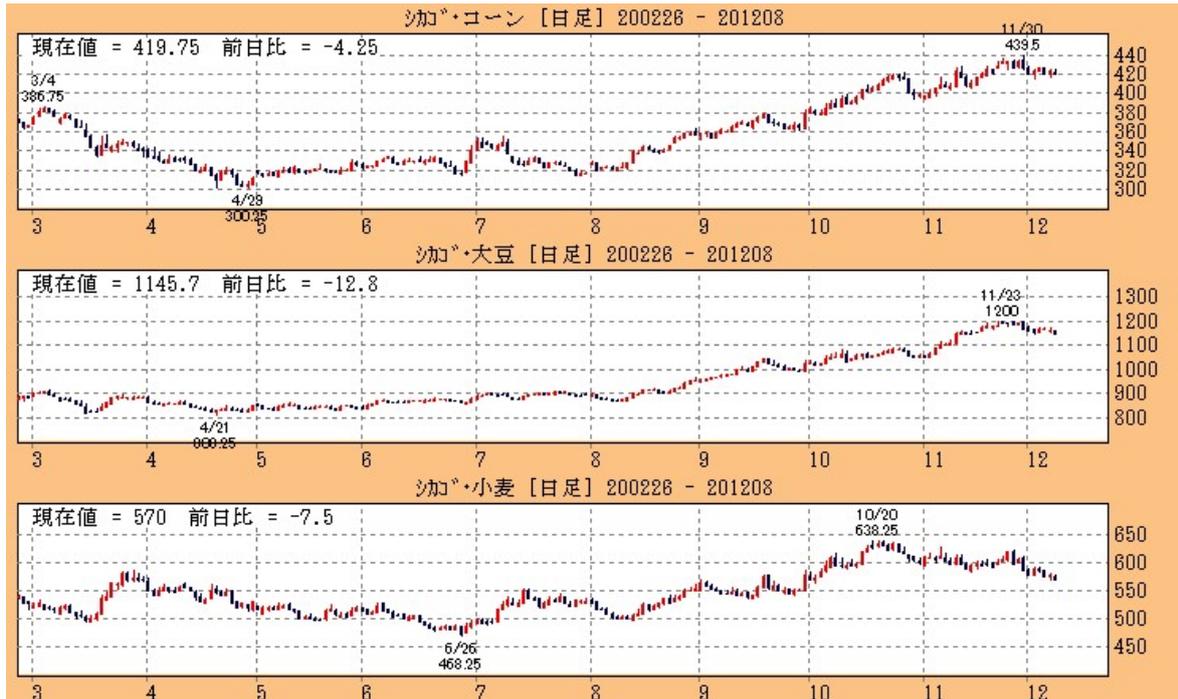
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシ、大豆は続落

発行日 : 2020/12/9



8日のシカゴトウモロコシ3月限は前日比▲4.25セント安の419.75セントと続落。取引レンジは418.50セント～424.50セント。南米の生産見通しが最近の降雨で改善し、減産懸念が薄れたことから売りが先行した。南米では今後2週間降雨の予報となっており作柄がさらに回復する見込み。また、2桁の下げ幅を記録した大豆相場の下落到に追随する売りもみられた。また、米中の対立がここにきて懸念されており、対中輸出の不透明感も広がったほか、10日発表の米農務省の12月の穀物需給を控え、ポジション調整の動きもあった。420セントを割り込んだことで、420セントが上値抵抗線に転じ、そのまま420セントを回復できずに取引を終えた。

8日のシカゴ大豆1月限は前日比▲12.75セント安の1145.75セントと大幅続落。取引レンジは1142.75セント～1160.25セント。南米で降雨が続くとの予報から生産見通しが改善したことを受け、売りが優勢となった。また、米中対立の懸念に加え、大豆相場が数年ぶりの高値に上昇する中、過去1カ月間の輸出版売が減速しており、米国大豆の需要後退が懸念されており、売り要因となった。

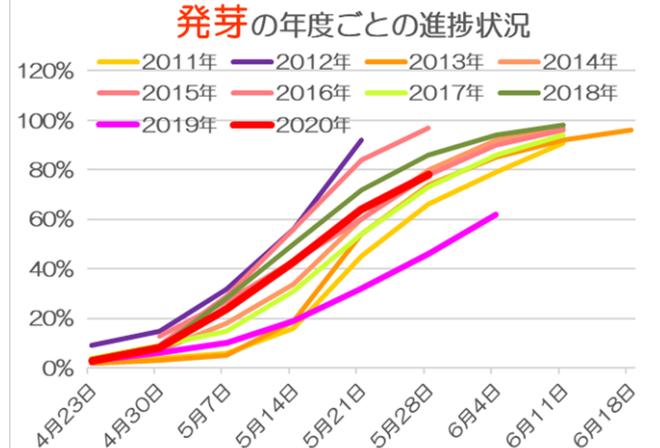
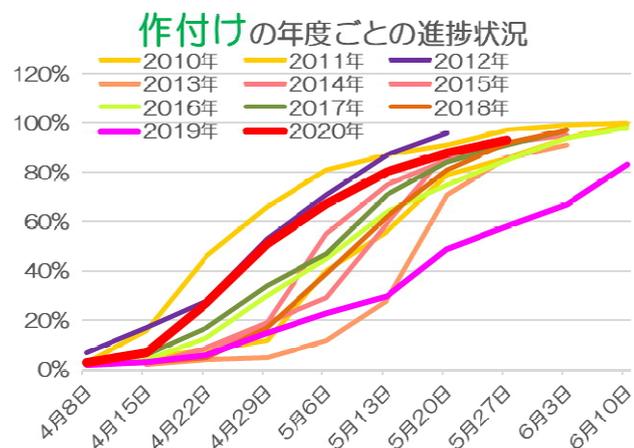
8日のシカゴ小麦3月限は前日比▲7.50セント安の570.00セントと反落し、9月29日以来の安値となった。取引レンジは569.25セント～577.25セント。世界的に供給が十分で、期末在庫が増加し米国産の輸出需要が停滞するとの見方が広がった。また、大豆、コーンの軟調な足取りに追随する売りが見られたうえ、米産地では年内いっぱい、良好な生育環境が続くと予想されていることが弱材料となった。



TOPICs 11年度から20年度までの各年度のトウモロコシのCrop Progress

作付と発芽

Planted	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
4月8日	3%	3%	7%				3%	3%	2%	2%	3%
4月15日	16%	5%	17%	2%	3%	2%	4%	6%	3%	3%	7%
4月22日	46%	8%	28%	4%	6%	9%	13%	17%	5%	6%	27%
4月29日	66%	12%	53%	5%	19%	19%	30%	34%	17%	15%	51%
5月6日	81%	40%	71%	12%	29%	55%	45%	47%	39%	23%	67%
5月13日	87%	56%	87%	28%	59%	75%	64%	71%	62%	30%	80%
5月20日	91%	79%	96%	71%	88%	85%	75%	84%	81%	49%	88%
5月27日	97%	86%		86%		92%	85%	91%	92%	58%	93%
6月3日	99%	94%		91%		95%	94%	97%	97%		67%
6月10日	100%	99%					98%			83%	



発芽	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
4月23日	2%	9%	2%	3%	2%		4%	3%	3%	3%
4月30日	4%	15%	3%	7%	9%	13%	9%	8%	6%	8%
5月7日	6%	32%	5%	18%	29%	27%	15%	28%	10%	24%
5月14日	16%	56%	19%	34%	56%	43%	31%	50%	19%	43%
5月21日	45%	92%	54%	60%	84%	60%	54%	72%	32%	64%
5月28日	66%		74%	80%	97%	78%	73%	86%	46%	78%
6月4日	79%		85%	92%		90%	86%	94%	62%	
6月11日	91%		92%	97%		96%	94%	98%		
6月18日			96%							

SilkingとDough

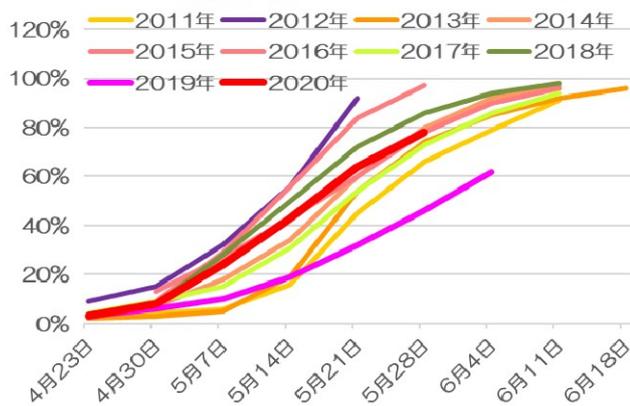
Silking	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
6月17日	2%	5%								
6月24日	2%	10%	3%	5%	4%	6%	4%	5%		2%
7月1日	5%	25%	6%	15%	12%	15%	10%	17%		4%
7月8日	11%	50%	16%	34%	27%	32%	19%	37%	8%	10%
7月15日	28%	71%	43%	56%	55%	56%	40%	63%	17%	29%
7月22日	56%	86%	71%	78%	90%	79%	67%	81%	35%	59%
7月29日	78%	94%	86%	90%		91%	85%	91%	58%	82%
8月5日	90%	98%	94%	96%		97%	93%	96%	78%	92%
8月12日									90%	
8月19日									95%	

2020/21年度の作付けは例年より順調だった。生産量が落ちた2019年（ピンク色）の作付けが他の年に比べて遅れたことがわかる。

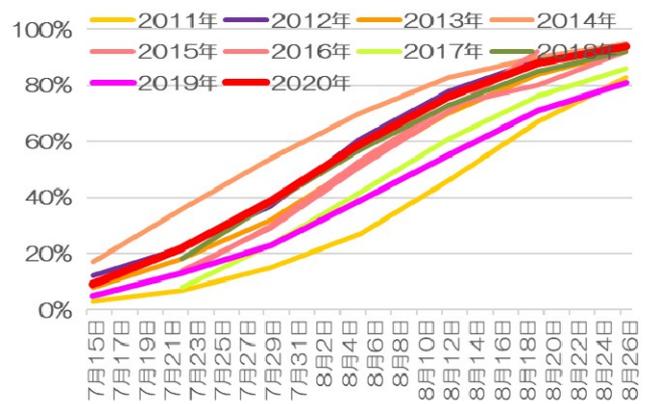


Dough	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
7月15日	3%	12%	8%	17%					5%	9%
7月22日	7%	22%	18%	36%	14%	13%	8%	18%	13%	22%
7月29日	15%	37%	32%	54%	29%	30%	23%	38%	23%	39%
8月5日	27%	61%	52%	70%	51%	53%	42%	57%	39%	59%
8月12日	46%	78%	70%	83%	71%	73%	61%	73%	55%	76%
8月19日	67%	89%	84%	90%	92%	80%	76%	85%	71%	88%
8月26日	83%	95%	92%	95%		92%	86%	92%	81%	94%
8月12日							92%	96%	89%	97%
8月19日							96%		93%	
8月26日									96%	

Silkingの年度ごとの進捗状況



Doughの年度ごとの進捗状況



DentとMatured

Dent	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
8月5日	6%	26%		9%		9%	7%	12%		
8月12日	14%	42%	5%	11%	9%	21%	16%	26%	7%	11%
8月19日	28%	60%	11%	22%	21%	40%	29%	44%	15%	23%
8月26日	47%	76%	23%	35%	39%	60%	44%	61%	27%	44%
9月2日	65%	86%	42%	53%	60%	76%	60%	75%	41%	63%
9月9日	80%	93%	64%	69%	87%	87%	75%	86%	55%	79%
9月16日	89%	97%	81%	82%	97%	93%	86%	93%	68%	89%
9月23日			96%	90%		97%	93%	97%	79%	95%
9月30日				96%			96%		88%	
10月7日									93%	

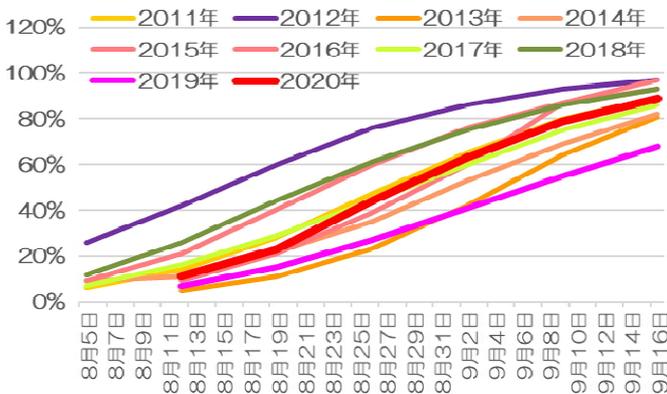
Matured	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
8月12日	6%	10%								
8月19日	4%	16%								
8月26日	7%	26%		8%	9%	15%	6%	15%		5%
9月2日	15%	41%	4%	27%	20%	22%	12%	22%	6%	12%
9月9日	25%	58%	9%	60%	35%	35%	21%	35%	11%	25%
9月16日	40%	76%	22%	77%	53%	54%	34%	54%	18%	41%
9月21日	63%	88%	40%	87%	86%	72%	51%	72%	29%	59%
9月28日			63%	93%	98%	86%	68%	86%	43%	75%
10月5日			94%			93%	82%	93%	58%	87%
10月12日						96%	90%	96%	73%	94%
10月19日									86%	97%
10月26日									93%	
11月2日									96%	

2012/13年は干ばつにより生産が大きく減少したが、Crop Progressではそれを明確に表すものはない。品質の問題と思われる。



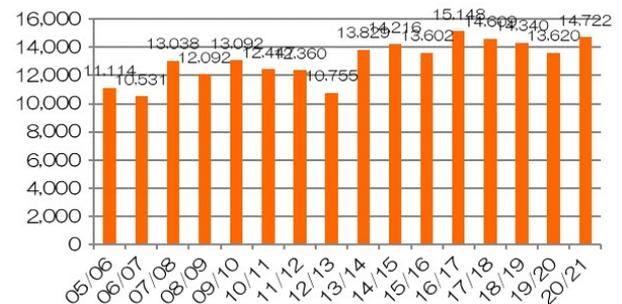
Harvested	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
9月2日	3%	6%								
9月9日	5%	10%								
9月16日	10%	15%	4%	4%	5%	5%	7%	9%	7%	8%
9月23日	12%	26%	7%	12%	10%	9%	11%	16%	11%	15%
9月30日	21%	39%	12%	24%	18%	15%	17%	26%	15%	25%
10月7日	33%	54%	0%	31%	27%	24%	22%	34%	22%	41%
10月14日	47%	69%	0%	46%	42%	35%	28%	39%	30%	60%
10月21日	60%	79%	39%	65%	75%	46%	38%	49%	41%	72%
10月28日	74%	87%	59%	80%	93%	61%	54%	63%	52%	82%
11月4日	85%	91%	73%	89%	96%	75%	70%	76%	66%	91%
11月11日			84%	94%		86%	83%	84%	76%	95%
11月18日			91%			93%	90%	90%	84%	
11月25日							95%	94%	89%	
12月2日									92%	

Dentの年度ごとの進捗状況



※ MaturedとHarvestedのグラフは空白が多く作れなかった。

百万ブッシェル 米国産トウモロコシの生産量



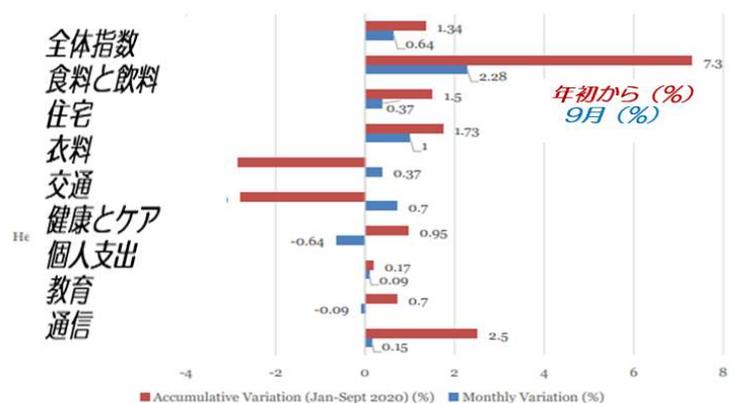
TOPICs ブラジルのインフレ by USDA Gain Report 11月9日

ブラジルの消費者物価は夏場から秋にかけてに上昇している。食料品や飲料の価格高騰によって経済が大きな影響を受けている。米、豆、大豆などの基本的な主食食用油の割合が最も高くなった。新型コロナウイルスのパンデミックが始まり、消費者の需要は、家庭での消費拡大を背景に増加したことに加え、人々は基本的な食糧を買い溜めする傾向が見られた。しかし、ブラジルの食糧インフレの重要な要因は、世界の主要農産物供給国としてのブラジルの役割であった。ブラジルの2020年の農産物輸出ブームは国内市場に商品の希薄化と価格の上昇をもたらした。ブラジルは米、トウモロコシ、大豆、大豆、大豆油、ミールの輸入関税を一時的に撤廃したが、は、2020/21年の穀物・油糧種子の収穫が開始されるまでの数ヶ月間、食品インフレは、沈静化する可能性は低い。

17年ぶりの消費者物価上昇

ブラジル地理統計研究所 (IBGE) によると、9月のブラジルの消費者物価指数は+0.64%と17年ぶりの高い上昇となった。インフレ率の3分の2以上 (0.46%) は、食品・飲料価格の高騰に起因している。年初から9月末までのインフレ率は+1.34%に上昇した。注目に値するのは、後半の時点で10月の市場のコンセンサス予測では、2020年のインフレ率は3%前後とされ、中央銀行の公式目標である4%をかなり下回っている。

2020年のブラジルの消費者物価 (9月及び年初から)



Data Source: IBGE, Chart: OAA Brasilia



ブラジル政府は一過性のものだと説

ブラジルでは、特に食品価格の高騰が消費者に影響を与えている。ことに、あまり裕福ではない人々に影響を与えている。9月上旬には、ブルーノ・ファンシヤル財務長官は、食品価格の上昇は、コロナウイルスのパンデミックに起因する供給ショックによる一時的で世界的な現象であると説明している。10月下旬、物価が上向きに推移していることを受けて、アドルフォ・サクシダ経済政策省次官は、ブラジルのインフレは問題ではないと述べており、最近の急騰の原因は食料や燃料価格の上昇は一過性のものだと述べている。

新型コロナウイルスは消費のパターンを変えた。ブラジルだけでなく世界中で主食の需要が急増した。その結果、貿易パターンも変化した。ブラジルでは、穀物や油糧種子の新たな収穫が開始され、2021年1月以降に在庫への圧力が緩和されるまで、少なくとも数ヶ月間は食料品価格が上昇したままであると信じるに足る理由がある。10月29日にオンラインビデオで登場したジャイル・ボルソナロ大統領は、ブラジルが米や大豆などの食料品を輸入していることを指摘している。

ブラジル国内の食料インフレは年初から20%を超えている

BGEの詳細データによると、米、豆、大豆、食用油などの基本的な主食の価格の上昇率が%で示され、他の食品カテゴリーでは、果物や野菜から牛乳や乳製品まで値上がっている。実際、今年の最初の9ヶ月間で、すべての基本的な食料品の価格が少なくとも2.55%以上上昇した。

the Intelligence and Research Center of Proconによって調査された価格によれば、基本的な消費者の食品バスケットの平均コストは、9月中に3.78%上昇した。年初からは20%を超えている。

コメの価格は昨年末から+64%高

サンパウロでは、コメと大豆価格が高騰している。コメの5キログラムパックは9月には20.35レアル（415円）に上昇し、8月の16.87レアル（344円）から+20パーセント上昇した。昨年末には同じパッケージが12.41レアル(252円)だったので、昨年末から+64%高くなっている。ブラジルのほとんどの地域でこうした動きが見られ、政府は9月9日にコメの輸入税を一時的にゼロに引き下げ、価格高騰を食い止めようとしている。米国とインドからコメが輸入されたが、今後も輸入量が増加するかどうかは不明でコメの価格の高騰を抑えるには十分かどうか分からない。

料理用大豆油価格が+69%高

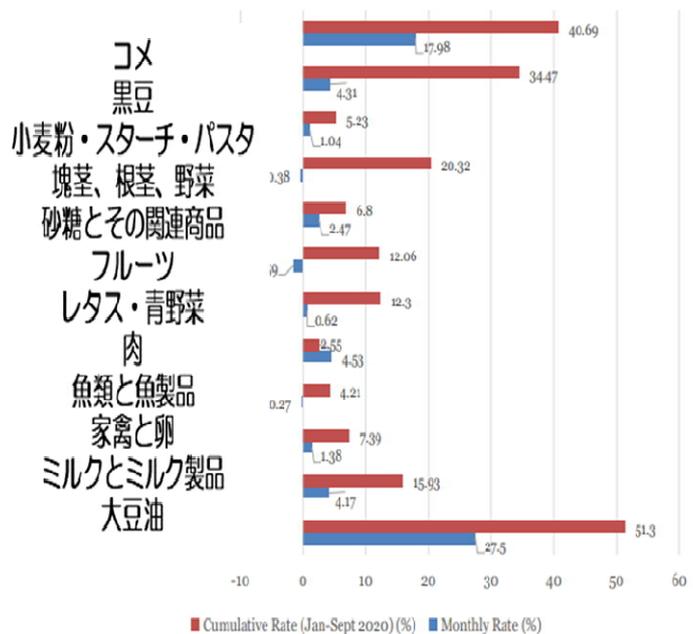
コメよりも価格が早く上昇した他の主食商品は、料理用大豆油である。サンパウロでは、900mlボトルの料理用大豆油の価格が+30%以上も上昇している。1月から9月にかけて+69%以上も高くなった。モッツアレラチーズの価格は年初から50%以上高くなり、乾燥豆は+26%高である。

パンデミックによる消費者需要の増

新型コロナウイルスのパンデミックが始まったことで、社会的な孤立化が食生活の変化をもたらした。消費者の需要は、家庭での消費を増加させた。基本的な食料品を備蓄しておく必要がある。また、政府の緊急援助プログラム（一般的にはコロナ・バウチャーと呼ばれるもので、月120ドルの一時的な現金を失業した、またはすでに失業していた約66百万人に配った。「ブラジル人のための失業者支援プログラム」は当初4月に3ヶ月の予定で開始された。その後、以前の半分の金額で2020年末まで延長された。の価値を向上させることができました。こうした現金の支払いは、主食の購入量の増加に直結した。特に多くのブラジル人が毎日1~2回は黒豆入りの米を食べているので、コメと豆に集中した。

National Supply Company (CONAB) の推計によると、ブラジル人の約95%が黒豆入りのお米を消費している。半数以上の方が毎日1回以上は米を食べている。しかし、年間の一人当たり消費量は、過去20年間で下降傾向にあり、ブラジル人の穀物の消費量は、米の消費量の一部を、パン、ジャガイモ、マニオクなどのでんぷん質の主食に置き換えている。しかし、CONABの推計によると、今年は米と豆の国内需要が増加するはずである。2019年と比較して5%前後 ソーシャルディスタンスも乳製品（特に長持ちするUHTミルク用）から肉、野菜、果物などの需要の増加に拍車をかけている。

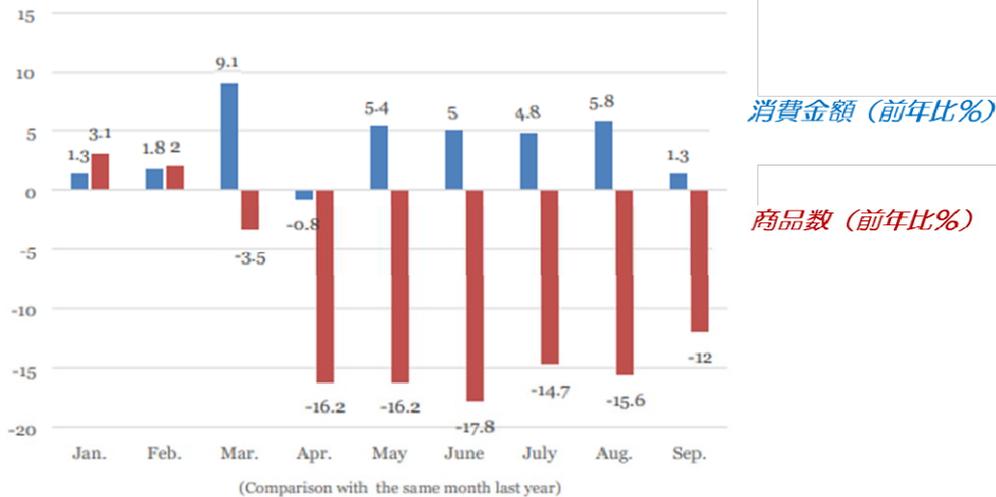
2020年のブラジルの食料品価格
(年初から9月まで)



Data Source: IBGE, Chart: OAA Brasilia



スーパーマーケットでの食料品の購入金額 (%)



Source: Fipec

食料品の商品金額も販売商品数も減っている

しかし、矛盾したことであるが、主食の消費量が増加している一方で、主食の購入高が減少し、スーパーでの購入額が減少している。財団法人経済研究所のレストラン消費指数によれば、消費者は、パンデミックの間前年同期より多くのお金を使っているのに対し購入商品数は少ない。さらに、ICRによると、消費者は2020年9月のスーパーでの食品購入は、2019年9月と比較して、前年比+1.3%増しか使わなかったという。彼らの消費パターンは、新しい、コロナウイルスの現実に合わせて調整されている。

輸出が大きく増加したのが食料インフレの原因の一つ

ブラジルの食糧インフレの重要な要因は、ブラジルが世界の主要サプライヤーとしての役割を果たしていることである。ブラジルは、農産物や農業製品の生産を行っている。ブラジルは農業大国であり、大豆は世界トップ3の輸出国である。大豆、牛肉、砂糖、オレンジジュース、コーヒーなどをグローバルに販売している。今年の9ヶ月間では、ブラジルの農産物輸出はドルベースで前年同期比+12%増となった。昨年の595億ドルから670億ドルに増加している。一方、輸入は71.6億ドルから69.6億ドルへと▲3%近く減少した。

ブラジルで価格が最も上昇した主要な食品カテゴリーをいくつか見てみると、輸出は、国内市場への供給をひっ迫させる重要な役割を果たした。例えば、大豆油の輸出は、2019年の同時期と比較して、2020年1~9月期に+12.5%増加した。一方、コメの輸出は、最初の9ヶ月間で金額で+70%以上、数量で+73%以上増加した。コメの輸入量は4%未満の増加で、輸入関税がゼロになったこともあり、9月の入荷が増えた。歴史的に在庫が少ないため、内需に強い圧力をかけた。

9ヵ月の大豆の輸出は前年の4.2倍

しかし、最も劇的に増加したのは、第1四半期の油糧種子と穀物の輸出であった。2020年1月から9月までの間に、大豆の輸出は3倍以上の5,280万トンとなった。前年同期は1240万トンであった。一方トウモロコシは、2019年に記録的な輸出を記録した後、2020年の最初の9ヶ月間の輸出は、2019年と比較して14%減少している。それでも、2020年のとうもろこしの輸出量は、同時期の過去5年平均を上回っている。



9カ月の大豆の輸出は前年の4.2倍

大豆の過去最高の輸出量とかなり多いトウモロコシの輸出量により、国内加工メーカーへの原料供給に不足が生じ、国内価格上昇の要因となった。大豆油、トウモロコシ、大豆粕などの製品価格も上昇した。ブラジルでは、家畜の飼料代は、家禽や家畜の生産コストの約70%を占めてる。生産コストは、少なくとも部分的には食肉・乳製品の消費者に転嫁されている。価格高騰に対抗するため、ブラジルは10月16日、米に加えて、メルコスール以外の国からのとうもろこし、大豆、大豆、大豆粕、大豆油の輸入関税を一時的に撤廃した。しかし、いくつかの輸送など輸入障壁があるため、米国などからの大量の輸入が実現するとは思えない。

ただ、増加する輸出とは関係ない農産物もある。乳製品、果物、野菜などは国内向けに生産されている。海外に輸出されるのはごく少量である。例えば乾燥豆はこの9カ月の輸出量は前年同期比で▲17%減の2,400万トンとなっている。前年は2,900万トンであった。これはブラジルの乾燥豆の生産量がこのところ横ばいだったためである。

通貨安が輸出増の原因

ブラジルレアルは1月1日4レアル/ドルであった。これが新型コロナウィルスのパンデミックにより、3月末には5.15レアルとなり、3分の1減価した。6月末には5.5レアルと更に安くなり、その後はその水準を保っているが、2020年で最も弱くなった新興国通貨の一つに挙げられるだろう。

この通貨安はブラジルの輸出業者や海外の購入者にとっては採算の向上につながった。逆に輸入品価格はその分高騰した。たとえば、ブラジルの精米業者は海外のコメを原料としていたが、輸入原料価格の高騰と、国内産コメの需要増による価格の上昇にはさまれた。

ブラジル国内の農産物価格の高騰はあるが、世界のコメ市場ではタイの干ばつやベトナム、カンボジア、ビルマなど伝統的なコメの輸出国はコロナのパンデミックで混乱している。世界的にコメの需要が増加しており、ブラジルもコメの輸出の機会があるが、ロックダウンで家計が社会とのつながりを少なくし、消費者は食料を貯蔵し始めている。ブラジルのコメの価格も高騰しているため、ブラジルからのコメの輸出には限度があるだろう。

大豆の輸出は、上半期中国はブラジルレアルの減価によりべいこくやアルゼンチン産より割安となったラジルからの大豆の買い付けを増やしたが、中国の港における新型コロナの検疫が問題となっている。

10月のインフレ率は0.86%

9月のインフレ率は1.93%だったが10月は0.86%と見られている。飲料や食料が主な値上がり商品である。大豆油やコメの価格はそれぞれ17.44%、13.36%上昇するだろう。この値上がり傾向は来年の春に新たな収穫が恥じあるまで続くものと思われる。

今後の予想

先進国ではインフレという言葉をしばらく聞いておらず、デフレが続く状態が継続している。昔ブラジルに駐在していた先輩がリュックサックいっぱい詰めた札束でジャガイモを買いに行ったという話を聞いたが今の日本では夢のようである。昨年の年末に200円だったコメの価格が9月には400円になっているというのは信じがたい状況であるが、そうした国も現存する。これが農民の生産意欲につながれば、2期作目の収穫量は増えることだろう。ただ、インフレの原因が買い溜めにあるとすれば、近い将来消費が萎えることも考えられる。やはりパンデミックとインフレは似合わない。需給相場に入っているトウモロコシや大豆相場は、南米の天候で供給が不足する要因以外には、大きな価格変動要因は無いのではないだろうか。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかなを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



株式会社コモディティ インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
 ☎社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
 ✉メールアドレス：kondo@commi.cc